

日本古生物学会 第 169 回例会

2020年2月7日（金）～2月9日（日）

東京大学 駒場キャンパス

* * * * * 1. プログラム 概要 * * * * *

2月7日（金）会場：東京大学駒場キャンパス・21KOMCEE EAST

- 【9:30-12:50】 シンポジウム1「系統樹から進化を探る-系統比較法の古生物への適用」（K011 教室） ii
- 【14:00-17:15】 シンポジウム2「古生代生物進化研究ルネッサンス：多様化と絶滅 Renaissance of Paleozoic evolution studies: radiation and extinction」（K011 教室） iii
- 【18:30-20:30】 懇親会（東京大学駒場生協食堂） iv

2月8日（土）会場：東京大学駒場キャンパス・13号館1323教室, 21KOMCEE EAST, 21KOMCEE WEST

- 【9:30-10:30】 会長講演（1323 教室） iv
- 【10:45-11:45】 学術賞受賞記念特別講演（1323 教室） iv
- 【13:00-14:00】 一般講演 ポスター発表コアタイム（ポスター会場） iv-vii
- 【14:15-15:30】 一般講演 口頭発表1（A-C 会場） vii-viii
- 【15:45-17:15】 一般講演 口頭発表2（A-C 会場） viii-ix
- 【17:15-17:30】 ポスター賞表彰式（ポスター会場付近） ix

2月9日（日）会場：東京大学駒場キャンパス・21KOMCEE EAST

- 【9:30-10:45】 一般講演 口頭発表3（A-C 会場） ix-x
- 【11:00-12:30】 一般講演 口頭発表4（A, B 会場） x
- 【14:30-16:30】 化石友の会イベント 東京大学総合研究博物館インターメディアテク 展示見学会 xi

発表方法と機器についての注意事項など（必ずお読みください） xi-xii

その他会場案内など xii-xiv

第 169 回例会参加費：一般会員 6,000 円 学生会員 2,000 円 友の会会員 1,000 円 一般非会員 7,000 円 学生非会員 3,000 円 高校生以下無料（予稿集は有料, 1冊 500 円）なるべくお釣りのいらぬようにご用意いただくと助かります。

* * * * * 2. プログラム 詳 細 * * * * *

2月7日（金）

【9:30-12:50】 東京大学駒場キャンパス・21KOMCEE EAST・K011教室

シンポジウム 1 「系統樹から進化を探る-系統比較法の新生物への適用」

Exploring evolution from phylogenetic trees: Applying phylogenetic comparative methods to palaeontology

コンビナー：久保泰（東京大学総合研究博物館）

系統比較法（Phylogenetic comparative methods, 種間比較法）は、系統が近いことによる影響（類似性）を取り除いて適応進化を研究するために 1980 年代に開発が始まった。研究対象が現生種、化石種、あるいは脊椎動物、無脊椎動物であるに関わらず系統関係が明らかであれば適用可能であり、現在では定量的に進化を語る為には必須の手法となりつつある。古生物学と系統比較法は、種レベル以上の大進化を探るという目的を共有する点で極めて親和性が高い。近年は Mesquite や R 等の統計ソフトウェアで簡単に様々な解析手法が使える環境が整いつつあり、古生物にも祖先状態や進化パターン、種分化率や絶滅率の推定等を行う多様な手法が適用されるようになった。しかし、国内では系統比較法を紹介するシンポジウムや参考書はまだ少ない。本シンポジウムでは、新手法の開発に携わり最先端の手法を使いこなす進化生物学者から古生物学者まで、様々な立場から系統比較法の歴史、多様な手法、古生物への適用例を紹介する。

- 9:30-9:40 趣旨説明 久保泰（東大）
9:40-10:05 研究者が思い描く進化モデルを検証できる系統比較法 沓掛展之（総研大）
10:05-10:30 オオツノジカの絶滅と性淘汰 坪井助仁（ルンド大）
10:30-10:55 比較データからの進化的制約の検出と、その鳥類四肢骨格への適用
渡辺順也（ケンブリッジ大）

【10:55-11:15】ー休憩ー

- 11:15-11:40 系統比較法によるワニ類の骨格進化様式の解明
飯島正也（クレムソン大・名古屋大）
11:40-12:05 Processes of speciation, extinction and phenotypic evolution in dinosaurs
坂本学（リンカーン大）
12:05-12:30 系統比較法で探る四肢動物の歩行様式の進化：古生物の視点の重要性
久保泰（東大）
12:30-12:50 総合討論

【14:00-17:15】 東京大学駒場キャンパス・21KOMCEE EAST・K011 教室
シンポジウム 2 「古生代生物進化研究ルネッサンス：多様化と絶滅」

Renaissance of Paleozoic evolution studies: radiation and extinction

コンビナー：磯崎行雄・小宮剛・澤木佑介（東京大学大学院総合文化研究科）

先カンブリア時代が終わり、生物相の急激な多様化が起きて、現在に近い地球表層の景観ができた。特に顕生代の前半3億年間に当たる古生代は、海洋での生活空間の拡大、また陸上での大規模森林の発達起きた結果、海洋水や大気の組成そして表層環境全体が大きく変わった時代である。非可逆的に進んだこの大変化の過程は、複数のイベントを介して段階的に起きた。まずカンブリア爆発/オルドビス多様化事変として知られる動物多様化、そして3回の主要な絶滅である。ただし、各事変の概要は判明したものの、それらの原因については未だアドホックな仮説が乱立しており、根源的な解は得られていない。古生層の分布および化石の産出が極めて少ない本邦において、三葉虫・サンゴ・紡錘虫などの研究を除くと、古生代研究はここしばらくの間やや不活発に見えた。しかし、最近になって日本独自の観点/技法の導入により新知識が蓄積されつつあり、その中で日本産化石を含めた古生代古生物研究の重要性が浮き彫りにされつつある。そこで、現時点における世界の研究前線を紹介し、最近の知見を含めた議論を通して、次の研究課題を探るためのシンポジウムを企画する。特に、古生代に起きた主要イベントとして、「カンブリア紀初期の爆発的動物進化」、「オルドビス紀の急速な多様化」、そして「3回繰り返された大量絶滅事変」に焦点を当てた議論を行う。

14:00－14:05 趣旨説明 Yukio Isozaki (University of Tokyo)

14:05－14:35 Ecosystem reconstruction during the Cambrian explosion: a working hypothesis
Xingliang Zhang (Northwest University, China)

14:35－15:05 Evolution of the Early Paleozoic plankton from the Paleo-Asian Ocean and its
marginal seas: evidence from the Gorny Altai
Olga T. Obut (Novosibirsk State University, Russia)

15:05－15:35 No 'Cambrian Explosion' and no 'Ordovician Event': a single long-term early
Palaeozoic radiation. Thomas Servais (University Lille, France)

【15:35－15:55】－休憩－

15:55－16:25 Nonmarine Permian extinctions and non-extinctions
Spencer G. Lucas (New Mexico Museum of Natural History, USA)

16:25－16:55 Global chilling and two Paleozoic extinctions (Ordovician and Permian): no bolide
impact nor LIP volcanism Yukio Isozaki (University of Tokyo)

16:55－17:15 総合討論

【18:30-20:30】懇親会（東京大学・駒場コミュニケーションプラザ2F・駒場生協食堂）

懇親会は予約制です。参加を希望される方は、必ず事前にメールかハガキで、1月17日（金）【必着】までに、お申し込み下さい。

会場：東大生協食堂 2階 ダイニング銀杏

会費：一般会員・一般非会員・友の会会員…6,000円、学生会員・学生非会員…4,000円

申込先：佐々木猛智(東京大学総合研究博物館)

メール：psj202002konsinkai@gmail.com

※件名は「日本古生物学会懇親会申込」とし、会員の種別（一般会員・友の会会員・一般非会員・学生会員・学生非会員）を明記してください。

ハガキ：〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学総合研究博物館 佐々木猛智宛

2月8日（土）会場：東京大学・駒場キャンパス13号館・1323教室, 21KOMCEE EAST, 21KOMCEE WEST

【9:30-10:30】会長講演（1323 教室）

真鍋真「K/Pg大量絶滅の研究から学ぶ」

【10:30-10:45】休 憩

【10:45-11:45】学術賞受賞記念特別講演（1323 教室）

安原盛明「貝形虫を用いた海洋生態系変動史研究」

【11:45-13:00】休 憩

【13:00-14:00】一般講演 ポスター発表（コアタイム：奇数番号13:00-13:30, 偶数番号13:30-14:00）

P01 Sara Emanuel・Tokiyuki Sato・Shun Chiyonobu・Yasufumi Iryu High-resolution calcareous nannofossil biostratigraphy at Ocean Drilling Program Site 1146 in the South China Sea

P02 伊藤剛 群馬県東部八王子丘陵のチャートセクションから産出したペルム紀シスウラリアン世放散虫化石

P03 佐藤美月・鈴木桜子・武藤俊・相田吉昭 ニュージーランド南島 Kaka Point に分布する Willsher Group から産出する中期三疊紀放散虫化石

P04 眞壁豊治・根岸拓真・山縣拓海・本山功・西村智弘 北海道穂別安住地域における上部白亜系の地質と放散虫化石層序

- P05 鈴木桜子・相田吉昭・植竹勇介・朝比奈俊輔・岸本直子 X線マイクロ CT および CP 法による *Glomeropyle* 属放散虫の内部構造の解析 -内部骨針の 3D 配置様式-
- P06 酒井恵祐・大串健一・芝原暁彦 有孔虫分析により明らかになった最終退氷期における北西太平洋の溶存酸素極小層 (OMZ) の拡大
- P07 石野沙季・板木拓也 人工知能による珪藻 *Eucampia antarctica* の殻形状の自動識別—新たな南極海水復元指標の検証に向けて—
- P08 望月貴史・大路樹生・Gonchigdorj Sersmaa・大沢果那・小野寺香乃 モンゴル西部Bayan Gol溪谷の上部エディアカラ系Zuun-Arts Formationで産出した藻類*Chinggiskhaania bifurcata*とその意義
- P09 及川一真・高柳栄子・遠藤一佳・吉田真明・井龍康文 隠岐の島産現生腕足動物殻の炭素・酸素同位体組成の個体差および性別差
- P10 鈴木敬介・田沢純一・三宅幸雄 岐阜県高山市本郷地域における飛騨外縁帯の火山碎屑岩層から産出した前期石炭紀腕足類
- P11 増永正大・椎野勇太 関節構造のない腕足動物ディスキナ類の形態と埋没過程
- P12 佐々木千夏・椎野勇太・延原尊美・伊東祐二・加藤了也・池原研 東海沖から採集された遺骸群集中の腕足動物 *Terebratulina*
- P13 酒井佑輔・後藤道治 福井県大野市九頭竜地域の九頭竜層群におけるジュラ紀オウムガイの産出層準
- P14 鈴木大河・安藤寿男・田口翔太 福島県相馬中村層群最上部の小山田層(最下部白亜系ベリアシアン)における堆積相と大型化石(アンモナイト・二枚貝)相
- P15 大森光・安藤寿男 福島県双葉層群足沢層(上部白亜系：コニアシアン)の海生化石密集層から復元する底生生態系
- P16 廣瀬浩司・鵜飼宏明・黒須弘美 天草市御所浦町前島の上部白亜系姫浦層群から産出する化石群
- P17 唐沢與希・松井久美子・前田晴良・小山内年昭 病み足に腫れ足：北海道産 *Menuites japonicus* (アンモナイト目) の病理変異
- P18 田近周・生野賢司・森本直記・Neil Landman 形態的種内変異の進化—白亜紀オウムガイ *Eutrophoceras* と現生オウムガイ *Nautilus* を例に—
- P19 中村千佳子・岡本隆 後期白亜紀アンモナイト *Scaphites* の個体群動態の再現
- P20 三上智之・井上新哉・望月直・岩崎渉 アンモノイド縫合線の数理生物学的研究
- P21 石川牧子・加瀬友喜・筒井秀和 穿孔捕食痕の頻度分布を用いた捕食圧の推定プログラムの構築
- P22 佐藤圭・Davin H.E. Setiamarga・米光裕・樋口恵太・岩橋徳典・永井清仁 環境変化に応じたアコヤガイの貝殻微細構造制御における分子メカニズム
- P23 江端修平・栗原行人 下部中新統一志層群におけるリュウグウハゴロモガイ科二枚貝 2 種の殻形態と分類
- P24 田岡信二・栗原行人 下部中新統一志層群におけるリュウグウハゴロモガイ科二枚貝 2 種の産状と生息環境
- P25 瀬戸大暉・間嶋隆一 上部鮮新統～下部更新統中津層群 (神奈川県中央部) の貝化石に基づく堆積環境の推定
- P26 吉岡七海・小長谷美沙・中谷是崇・瀬戸大暉・間嶋隆一 三浦半島の東京湾沿いに露出する下部更新統野島層と大船層の貝化石群集と堆積環境
- P27 奈良正和 西南日本弧中新統に産する生痕化石 *Dactyloidites otto* の形成環境とその古生態学的意義
- P28 石寄美乃・小倉誠也・高橋千紬・金子真弥・井村朱里・椎野勇太 スナガニの巣穴から読み解く行動生態と海浜動態への応答様式
- P29 安藤佑介・廣瀬浩司・鵜飼宏明・島田一良・黒須弘美 熊本県天草市の白亜系御所浦層群から産出した十脚類化石の新記録
- P30 田中源吾・前川匠 上部石炭系長岩層の介形虫化石群 (予報)
- P31 新山颯大・神谷隆宏・田中源吾 南西諸島の浅海域における現生介形虫群

- P32 勝田直興・鈴木雄太郎 レビュー：三葉虫の複眼形態の多様性
- P33 多田誠之郎・對比地孝亘 軟骨魚類 *Egertonodus* 属の新標本の記載とその感覚器官の機能推定
- P34 仲井大智 仙台層群竜の口層（上部中新統一下部鮮新統）から産出した板鰓類化石群集
- P35 Mori Chida・Alison M. Murray・Donald D. Brinkman・Oksana Vernygora・Hiromichi Kitagawa A new dercetid fish (Neoteleostei, Aulopiformes) from the Campanian Bearpaw Formation, Alberta, Canada
- P36 藪本美孝・廣瀬浩司・黒須弘美・パウロ M. ブリトー 新標本の発見によるイクチオデクテス目魚類 *Amakusaichthys goshouraensis* の新たな大きさと特徴
- P37 宮田真也・藪本美孝 レバノン上部白亜系サニー層産 Halecomorph 魚類とその意義
- P38 石井篤・宮田真也・佐藤たまき 現生アロワナ上目魚類バタフライフィッシュ (*Pantodon buchholzi*) の骨学的研究—アロワナ上目化石魚類の系統学的研究に向けて—
- P39 Benjamin T. Breeden III・Kentaro Izumi・Makoto Manabe・David B. Kemp・Chisako Sakata・Fumio Takahashi A re-evaluation of fossil reptiles from the Lower Jurassic Nishinakayama Formation in Shimonoseki, Yamaguchi: new insights from X-ray computed tomography and geochemistry
- P40 大塚健斗・平山廉・伊左治鎮司・真鍋真・松本涼子・大倉正敏・酒井佑輔・藪本美孝・山口一男・白山市 石川県白山市白峰地域の手取層群北谷層から発見された脊椎動物化石含有層に関する予察的報告
- P41 藪田哲平・辻野泰之・田上浩久・河部壮一郎・中山健太郎・東洋一 徳島県勝浦町の下部白亜系立川層より産出したスッポンモドキ科カメ類
- P42 山下桃・對比地孝亘 水中視が及ぼすカメ類の鞏膜輪形態への影響
- P43 卓義揚・蔡政修 台湾最後のトミストマ類ワニ
- P44 江川史朗・Joao F. Botelho・倉谷滋・John R. Hutchinson・Bhart-Anjan S. Bhullar ワニと恐竜の大腿骨頭は相同だが、恐竜と鳥の大腿骨頭は相同ではない
- P45 Masanori Ozeki・Sachiko Agematsu・Lida Xing Preliminary report on a new Istioactylid Pterosaur specimen from the Lower Cretaceous Yixian Formation of Liaoning Province, China
- P46 B. Mainbayar・S. Ishigaki・Kh. Tsogtbaatar・M. Saneyoshi Large Sauropod trackway with manus imprints from the Upper Cretaceous of Gurilin Tsav fossil site, Western Gobi Desert, Mongolia
- P47 青塚圭一・中島保寿・疋田吉識・遠藤秀紀 北海道・中川町の白亜系蝦夷層群より産出した潜水鳥類化石
- P48 田中公教・小林快次・生野賢司・池田忠広・三枝春生 兵庫県洲本市の和泉層群北阿万層（下部マーストリヒチアン階）から産出した潜水鳥類ヘスペロルニス目
- P49 脇水徳之・對比地孝亘 現生主竜類における三叉神経系の形態比較と頭骨吻部形態の進化史に関する考察
- P50 伊藤海・伊藤愛・遠藤秀紀 食肉類の頭蓋骨形態に基づく咬合力の推定
- P51 孫正涵・蔡政修 台湾更新世コククジラ化石の頭部筋肉復元
- P52 一島啓人・河部壮一郎・澤村寛 鯨類の耳周骨における“単孔”の正体
- P53 鈴木苑子・上松佐知子・猪瀬弘瑛 福島県の上部中新統久保田層より産したクジラ化石と古環境
- P54 富谷進・Shawn Zack・Michelle Spaulding・John Flynn 中部始新統ワシヤキー層（米国ワイオミング州）産出の肉食哺乳類とその多様性の変動
- P55 高孟岑・蔡政修 台湾先史時代初めてのツキノワグマの記録
- P56 村上達郎・樽創・鏑本武久 中国河北省熱河地域から産出した後期更新世サイ科化石
- P57 半田直人・加藤敬史 日本の鮮新世サイ科（奇蹄目）化石の現状と課題：とくに古生物地理について
- P58 松井久美子・唐沢與希 “触れる” エゾミカサリュウ (*Taniwhasaurus mikasaensis*) —安価で簡単な AR Web アプリケーションの作成—

- P59 戸坂茂茄実・吉田雅則・今井拓哉・服部創紀・堀口直人 古生物学とデザインの相乗効果：*Allosaurus*（竜盤目：獣脚亜目）の復元を例に
- P60 大野理恵・細矢剛 知っていますか？ S-N e t
- P61 和田和美・池田忠広・三枝春生・田中公教・新谷明子 化石剖出用具の開発（その2）

高校生ポスターセッション

- HP1 阿部和弥・岡田優寿希・笠井愛美・金子なつみ・中山翔・三角和歌子 オルビトリナ化石による山中白亜系石堂層の年代再検討
- HP2 高橋恒佑 小野川河床の下総層群貝化石密集層の有孔虫化石について
- HP3 高橋慶多 螺環関数—アンモナイト類の体系的同定法—
- HP4 小川結葵風・覺弥月・佐藤柚希 千葉県南西部における約 50 万年間のアサリの形の違い
- HP5 赤林哲也・坂本龍生・小島陽介・村岡怜真・佐藤慶一・今村洸成 神奈川県三浦半島の貝形虫〜*Microloxoconcha* 属の未記載種の発見、および間隙環境の変遷〜
- HP6 横堀朝香・三田鈴・中村真綾 茨城県美浦村馬掛の下総層群から産出したクモヒトデ骨片化石と介形虫化石

【14:00-14:15】休 憩

【14:15-15:30】一般講演 口頭発表 1（A-C 会場）

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部（1） 座長：藺田哲平	古植物学・古生態学の部 座長：對比地孝亘	層序・地史の部 座長：伊藤剛
A01 東山大毅・栗原裕基 前上顎骨再考：鼻先は祖先の口先	B01 ルグラン ジュリアン・山田敏弘・寺田和雄・西田治文 手取層群伊月層・桑島層のパリノフロラから解明する「手取型植物地理区」のバレミアンの植生変化	C01 河野聖那・磯崎行雄・佐藤友彦・張興亮・劉偉 南中国最下部カンブリア系の層序と“最古”節足動物化石
A02 松本涼子・藤原慎一 四肢動物における後頭顆の形態と可動性の進化について	B02 山田敏弘・西野萌 <i>Salvinia pseudoformosa</i> のシントタイプの生育年代推定	C02 長田充弘・久保見幸・大田敬豊・坂下智和・酒井佑輔・黒島健介・山本鋼志・大藤茂 岐阜県および福井県の手取層群から得られた Albian ジルコン U-Pb 年齢
A03 中島保寿・古村俊行 南部北上帯下部三疊系大沢層から産出した破碎型の歯を伴う爬虫類	B03 木村由莉・山田桂太・関あずみ・鈴木希実・清家一馬 小動物の呼気中の炭素安定同位体比に認められる母乳効果と同位体古生態学への意義	C03 松本廣直・黒田潤一郎・Rodolfo Coccioni・Fabrizio Frontalini・坂井三郎 白亜紀古世アプチアンからアルビアンにかけての海洋 0s 同位体比層序：海洋無酸素事変と大規模火成活動との関連解明に向けて

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (1) 座長: 藺田哲平	古植物学・古生態学の部 座長: 對比地孝亘	層序・地史の部 座長: 伊藤剛
A04 池田昌之・ルグランジュ リアン・古賀多聞 陸域脊椎 動物の群集変化要因としての モンスーン: 三疊紀の例	B04 有村花菜・田邊佳紀・仲 谷英夫・小野寺麻由・國松 豊・中務真人 ケニア北部ナカ リ層から産出する齧歯類化石 の食性推定	C04 中島礼・荒岡大輔・吉村 寿紘 <i>Fortipecten</i> <i>takahashii</i> のストロンチウム 同位体層序
A05 池田忠広・太田英利・三 枝春生・久保田克博・生野賢 司・田中公教・半田久美子・ 田中康平 兵庫県丹波市の下 部白亜系篠山層群から発見さ れたオオトカゲ類化石	B05 久保麦野・藤田祐樹 更新 世後期の洞穴遺跡から産出し たリュウキュウジカの食性推 定	

【15:30-15:45】休 憩

【15:45-17:15】一般講演 口頭発表 2 (A-C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (2) 座長: 池田忠広	形態解析の部 座長: 吉田勝彦	微古生物学の部 座長: 黒柳あずみ
A06 築地祐太・藺田哲平・湯 川弘一・東洋一 福井県勝山 市の下部白亜系北谷層から産 出したカメ類足跡化石	B06 鳥飼嘉泉 二枚貝 <i>Phacosoma japonicum</i> における 個体群間の異時性	C05 氏家由利香・石谷佳之・ 石井俊一・長井裕季子・高木善 弘・生田哲朗・豊福高志 トラ ンスクリプトーム解析に基づく 有孔虫の石灰化分子機構
A07 高橋亮雄・Purevsren Byambaa・Igor G. Danilov・ Buuevi Mainbayar・実吉玄 貴・石垣忍・Khishigjav Tsogtbaatar モンゴル国東ゴ ビのバインシレ層（後期白亜 紀）から新たに発見されたリ ンドホルムエミス科（爬虫綱 カメ目）化石の分類学的帰属	B07 近藤康生 イタヤガイ類 における放射肋数の変異と色 彩の関係: <i>Pecten albicans</i> お よび <i>P. naganumanus</i> の例	C06 石谷佳之・矢崎裕規・氏 家由利香・稲垣祐司 有孔虫の 大規模分岐年代推定
A08 平山廉・藺田哲平・高井 正成・タウンタイ・ジンマウ ンマウンティン ミャンマー の新第三系より新たに発見さ れた曲頸類	B08 平野広大・鈴木雄太郎・ 椎野勇太 <i>Isotelus</i> 三葉虫に おける口腔周辺の知覚系分布 様式について	C07 相田吉昭・鈴木桜子・植 竹勇介・朝比奈俊輔 Ar+イオ ンビーム加工 (CP 法) による微 化石の内部構造解析法の開発- 放散虫 <i>Glomeropyle</i> <i>grantmackiei</i> への応用-
A09 平山廉・高橋啓一・中川 良平・河部壮一郎・遠藤秀 紀・安藤佑介 日本の鮮新統 産スッポン科に関する考察	B09 田中源吾 介形虫の視覚器 官の機能形態学的研究—其の 9	C08 高橋聡・山北聡・鈴木紀 毅 最前期三疊紀黒色粘土岩層 から産したコノドント動物の軟 体部の痕跡とその化石過程

A 会場	B 会場	
古脊椎動物の部 (2) 座長:池田忠広	形態解析の部 座長:吉田勝彦	
A10 犬塚則久 進化の法則の再考	B10 大山望・前田晴良・Alexander P. Rasnitsyn 上部三畳系美祢層群産 Madygellinae 亜科の産卵管の形態比較と分類学的研究	

【17:15-17:30】休 憩

【17:30-17:45】ポスター賞表彰式（ポスター会場 1 付近）

2月9日（日）会場：東京大学・駒場キャンパス 21KOMCEE WEST

【9:30-10:45】一般講演 口頭発表 3（A-C 会場）

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (3) 座長:松本涼子	古生態学・分類の部 座長:佐藤圭	古環境学・古海洋学の部 座長:石谷佳之
A11 小布施彰太・柴田正輝 福井県勝山市の手取層群北谷層から見るワニ形類の多様性	B11 安藤寿男・湯口博満 北海道中新統のカキ化石層のタフォノミーとカキ類の古生態	C09 KAMRAN, Muhammad・XI, Dangpeng・FRONTALINI, Fabrizio・JIANG, Tian・QING, Zuohuan・WAN, Xiaoqiao Larger Benthic Foraminiferal Turnover and Paleocene-Eocene Thermal Maximum along the Northern Indian plate margin, Eastern Tethys (Pakistan)
A12 田中康平・池田忠広・久保田克博・三枝春生・田中公教・生野賢司・半田久美子・Darla Zelenitsky・François Therrien 兵庫県丹波市から発見された獣脚類恐竜の卵・卵殻化石	B12 松原尚志・山口亮 北海道釧路地域東部に分布する暁新統根室層群汐見層上部の貝類化石群	C10 岨康輝・本郷宙軌・田中健太郎・坂井三郎・藤井琢磨・山口耕生 沖縄・宝島の中期完新世離水サンゴ礁産の化石サンゴを用いた海洋表層塩分復元
A13 田中公教・小林快次・飯島正也 中生代真鳥形類の系統解析と海洋進出への進化パターン	B13 高橋宏和 中国地方西部の下部中新統産干潟貝類化石の産状と種構成	C11 藤井麻緒・堀利栄・大藤弘明・仲村康秀・永瀧真理子 高知県柏島黒潮海域における現生放散虫類 Acantharia 目の個体密度と骨格化学成分の検討

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (3) 座長:松本涼子	古生態学・分類の部 座長:佐藤圭	古環境学・古海洋学の部 座長:石谷佳之
A14 明田卓巳・藤原慎一 胸郭骨格形態を元にした鳥類の羽ばたき能力の指標	B14 天野和孝 後期鮮新世における大桑・万願寺動物群中の暖流系軟体動物化石	C12 北村晃寿・山本有夏・原田賢治・豊福高志 2017 年台風 21 号による高潮堆積物の形成
A15 Nicole Kuhn・Kohei Tanaka・Darla K. Zelenitsky・François Therrien Body Mass Estimation of Avian Embryos Using Bone Dimensions	B15 栗原行人 リュウグウハゴロモガイ科化石二枚貝 <i>Periploma besshoense</i> (Yokoyama) と <i>P. yokoyamai</i> Makiyama: 殻形態とその分類	

【10:45-11:00】休 憩

【11:00-12:30】一般講演 口頭発表 4 (A, B会場)

A 会場	B 会場
古脊椎動物の部 (4) 座長:中島保寿	理論古生物学の部 座長:椎野勇太
A16 石垣忍・Buuvei MAINBAYAR 足跡化石への 3-D デジタル記録手法適用と今後の展望	B16 佐藤英明・佐々木猛智 貝殻模様形成モデルの理論的研究: 貝殻模様の進化パターンを推定する際の問題点とその解決策
A17 北川博道 埼玉県新産パレオパラドキシア化石とパレオパラドキシアの成長	B17 生形貴男 アンモノイドの殻形状の個体発生変異を表す理論形態モデル
A18 松井久美子・Brian Beatty・澤村寛・安藤達郎・對比地孝亘 デスモスチルス類の感覚機能の進化と生態の変化-Desmostylidae のデジタルエンドキャストを基に-	B18 岡本隆 相互作用型成長モデルに基づいた三次元型異常巻アンモナイト殻形態の再現
A19 Guo Zixuan・甲能直樹 岩手県二戸市の中新統門ノ沢層から産出したケントリオドン類化石について	B19 吉田勝彦 進化シミュレーションモデルを用いて生態系変化を予測する
A20 松岡廣繁・谷口龍・丸山啓志・瀬岡理子・大貫巧・石橋隆・馬越仁志・大野照文 京都府宇治田原町の中新統綴喜層群から産出した新たなガンジスカワイルカ上科の化石	
A21 梶並魁 ミズオオトカゲとモササウルス	

【14:30-16:30】化石友の会イベント 東京大学総合研究博物館 インターメディアテク 展示見学会

- ・ 展示解説：佐々木猛智・久保泰（東京大学総合研究博物館）
- ・ 会場：〒100-7003 東京都千代田区丸の内 2-7-2 K I T T E 2・3 階
J P タワー学術文化総合ミュージアム インターメディアテク
<http://www.intermediatheque.jp>
- ・ 集合場所：インターメディアテク 2 階 ACADEMIA（レクチャーシアター）
- ・ 集合時間：14:30
- ・ 定員：40 名（先着順）
- ・ 参加申し込み：2020 年 1 月 9 日（木）～24 日（金）＊定員に達し次第締め切ります。
- ・ 参加決定者には別途詳細情報をご連絡します。
- ・ 申し込み方法：下記 URL から所定フォームに必要事項を記入してお申し込み下さい。
www.palaeo-soc-japan.jp/friends/events.html
- ・ 参加費：例会参加費が必要です（友の会会員 1000 円、高校生以下無料）。

***** 3. 発表方法及び機器についての注意事項など *****

<口頭発表をされる方へ>

【重要！】口頭発表はパソコン等持参です！貸出はありません。

- ・ 接続端子は、HDMIかmini D-Sub15ピン(VGA)の2種類のみです。それ以外の端子の場合はご自身で変換アダプターをお持ち下さい。
- ・ 休憩時間などに接続状況を確認して下さい。接続作業時間も講演時間に含みます。
- ・ プロジェクター画面は原則として4：3画角となります。
- ・ パソコン等の操作や接続は、発表者ご自身でお願いします。
- ・ 一般講演の口頭発表時間は15分です（質疑応答、使用機器の接続時間含む）。

<ポスター発表をされる方へ>

- ・ ポスターのサイズはA0（横841 mm×縦1189 mm）が基準です。一発表につき、指定された1面のみをご利用下さい。貼り付け場所は21KOMCEE EAST棟（地下）ですが、貼り付け指定場所は当日にご確認ください。
- ・ ポスターは2月8日（土）の9：00から貼ることができます。また、9日（日）の12：30までに各自撤収して下さい。詳しくは会場受付または会場係員までお尋ね下さい。

- ・ポスター掲示用の画鋏は会場で用意します。

会場及び発表方法・機器に関する問い合わせ先（「●」を「@」に置き換えて下さい）

開催実行委員：小宮剛（komiya●ea.c.u-tokyo.ac.jp）Tel: 03-5454-6609

澤木佑介（y-sawaki●ea.c.u-tokyo.ac.jp）Tel: 03-5454-6364

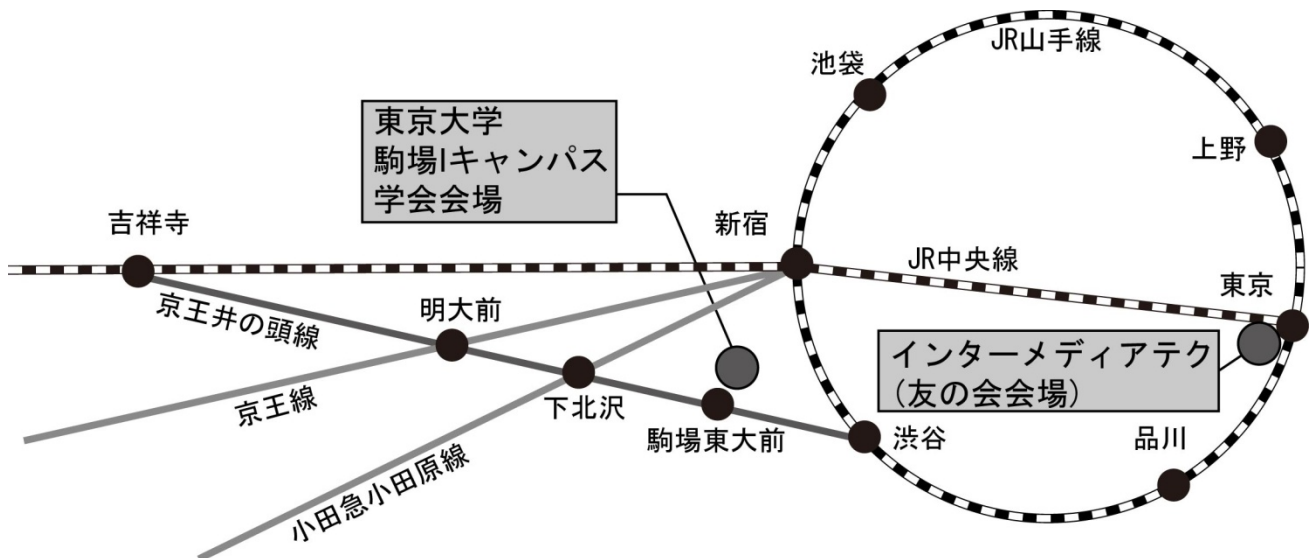
＊必ず兩名へメール願います。

＊メール題目「古生物学会2020年東大駒場・問い合わせ」

行事係：遠藤一佳（東京大学）E-mail：endo●eps.s.u-tokyo.ac.jp

その他

- **ご来場について**：公共交通機関をご利用下さい。シンポジウム・懇親会は「京王井の頭線・駒場東大前」駅が最寄りとなります。
インターメディアテクは「JR線もしくは丸ノ内線・東京」駅が最寄りとなります。
- **IC 乗車券**：JR線、京王線、小田急線などは Suica など交通系 IC カードと Pasmo 等が利用できます。



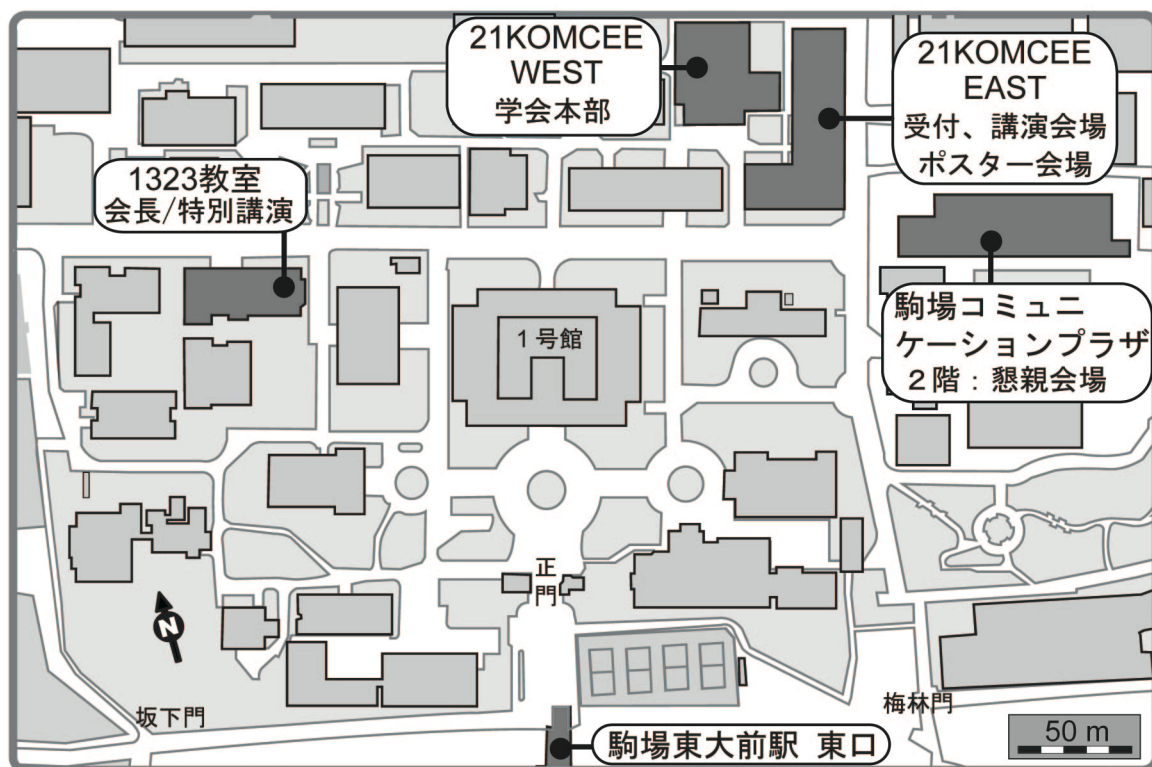
- **出展について**：本例会において展示，物販等の出展をご希望の方は，2020年2月4日（火）までに，遠藤一佳（endo●eps.s.u-tokyo.ac.jp）あてメールにてご連絡下さい（●を@に置き換えてご送信願います）。出展申込書をお送りします。なお，今例会では出展料をいただくこととしました。料金は1ユニット（縦45cm×横180cm×高さ71cmの机2コ分）あたり，土日の2日間で1万円です。あらかじめご了承ください。
- **懇親会について**：本プログラム iv ページ参照。
- **お食事**：大学生協の食堂は金曜昼のみ営業予定です（変更の可能性あり）。その他，キ

キャンパス内にはレストラン（イタリアン・トマト Caff  VIGORE 東大駒場店 金曜：8:30～21:00 土日：10:00～17:00 詳細は <https://www.italiantomato.co.jp/store/it016/> にてご確認下さい）があり、キャンパス周辺には複数のコンビニエンスストアがございます。

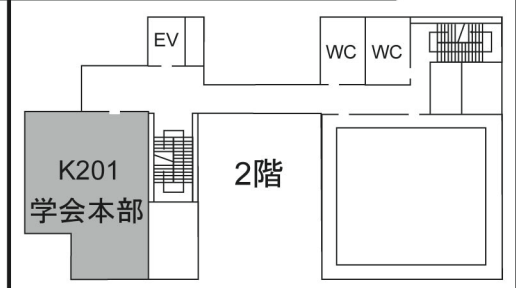
- **喫煙**：東大駒場キャンパス敷地内に喫煙スペースが数箇所ございますので、そちらでお願いいたします。
- **託児所**：都内には託児施設がありますので、各自お調べください。
- **盗難対策**：本学会を含め、学会開催中の盗難が報告されています。貴重品は各自の責任で管理をお願いいたします。
- **写真およびビデオ撮影について**：発表者の許可なく講演およびポスター発表を撮影することを禁止します。

***** 4. 会場案内 *****

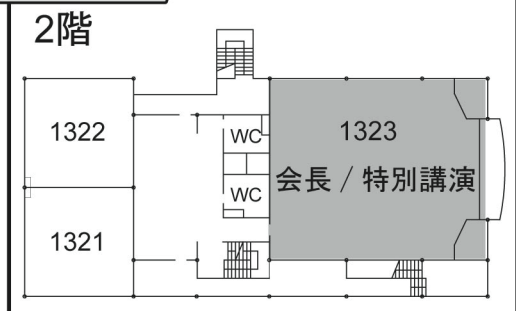
会場見取図



21KOMCEE West



13号館



21KOMCEE East

